

指定管理者による公の施設の管理運営状況

平成 30 (2018) 年度

施設名	栃木県立とちぎ海浜自然の家
施設所管課	教育委員会事務局生涯学習課
指定管理者	公益財団法人とちぎ未来づくり財団 (法人番号 7060005001072)
指定期間	平成 26 (2014) 年 4 月 1 日 ~ 平成 31 (2019) 年 3 月 31 日

1 施設の概要

施設所在地	茨城県銚田市玉田 3 3 6 - 2
施設の概要	①敷地面積：1 8 5, 6 0 5 m ² 建物面積：1 7, 9 5 8 m ² ②生活館：事務室・宿泊室・大食堂・小食堂・大浴場×2・小浴場 ③学習館：海の展示館・図書館・視聴覚室・大学習室・小学習室×4・調理実習室・会議室 ④スポーツ館：温水プール・体育館 ⑤野外施設：ロッジ 1 0 棟・野外調理場×2・アスレチック・テニスコート・自転車モトクロス・スポーツ広場
業務内容	①海浜自然の家の施設の維持管理に関する業務 ②海浜自然の家の利用の許可に関する業務 ③海浜自然の家の運営に関する業務

2 収支の状況

平成 30 (2018) 年度

(千円)

収入			支出		
指定管理※2	指定管理料	3 4 2, 4 7 6	指定管理※2	事業費	9, 8 6 3
	利用料金収入	2 0, 1 7 0		管理運営費	2 5 5, 3 9 0
	その他収入※1	1 2, 0 6 0		人件費	1 0 7, 2 2 6
				その他支出※1	9 2 8
	合計	3 7 4, 7 0 6		合計	3 7 3, 4 0 7
指定管理業務収支差額①			1, 2 9 9		
自主事業			3 2 4		
自主事業収支差額②			1 1 1		
収支差額 (①+②)			1, 4 1 0		
備考 (※1 その他収入の主なものを記載) ・利用者負担金 (活動物品代金等) 1 1, 5 0 0 千円 ・原子力立地給付金 5 5 7 千円 ・雑収入 3 千円			備考 (※1 その他支出の主なものを記載) ・退職給付引当資産取得支出 9 0 1 千円 ・公課費 2 7 千円		

※2 指定管理業務に係わるもののみ計上する。

平成 29 (2017) 年度 (前年度)

(千円)

収入			支出		
指定管理※2	指定管理料	3 4 1, 9 1 0	指定管理※2	事業費	8, 1 6 1
	利用料金収入	2 1, 5 9 7		管理運営費	2 3 7, 8 4 3
	その他収入※1	1 0, 0 4 9		人件費	1 0 7, 2 7 5
				その他支出※1	1 7 4
	合計	3 7 3, 5 5 6		合計	3 5 3, 4 5 3
指定管理業務収支差額①			2 0, 1 0 3		
自主事業			3 4 9		
自主事業収支差額②			1 3 6		
収支差額 (①+②)			2 0, 2 3 9		

備考（※1 その他収入の主なものを記載） ・利用者負担金（活動物品代等）収入 9, 514千円 ・原子力立地給付金 524千円 ・雑収入 11千円	備考（※1 その他支出の主なものを記載） ・退職給付引当資産取得支出 116千円 ・公課費 58千円
---	--

※2 指定管理業務に係わるもののみ計上する。

3 利用状況

施設名	項目	平成 29 (2017) 年度 (前年度)	平成 30 (2018) 年度
とちぎ海浜自然の家	開所日数	341日	334日
	宿泊可能日数	314日	304日
	利用日数	305日	296日
	実利用者数	26,335人	25,329人
	延利用者数	67,575人	65,231人
	延宿泊者数	41,337人	39,555人
	利用率	49.5%	48.8%
	宿泊利用率	32.9%	32.5%

4 サービス向上に向けた取組

<ul style="list-style-type: none"> ・海其自然や海にかかわる産業・文化など「海から学ぶ機会」、多くの県民が触れ合う「交流の機会」、多くの県民に愛され、親しまれる「快適な環境」の提供に努めた。 ・利用者の立場に立った接遇や指導・支援に係る実践的研修の実施により、職員一人ひとりの資質及び能力の向上に努めた。 ・利用者・県民ニーズに対応した活動プログラムの開発・提供や施設設備の改善充実等、生涯学習施設としての機能向上に努めた。 ・ホームページを活用し、積極的な広報活動に努めた。

5 利用者意見への対応

利用者意見の把握方法					
<ul style="list-style-type: none"> ・利用者や利用団体へのアンケート調査の実施 <p>臨海自然教室に参加した学校の引率者や児童、また、各種団体の利用者及び主催事業の参加者を対象にアンケート調査を実施している。</p>					
主なアンケート項目	とても良い	良い	普通	やや悪い	悪い
職員の対応	85.7%	13.7%	0.6%	0%	0%
施設・設備関係	54.0%	38.6%	6.6%	0.8%	0%
食事・食堂関係	61.0%	27.0%	7.9%	3.8%	0.3%
社会教育団体等利用者アンケート：回答数376（回答率：70.9%）					
主な利用者意見（苦情・要望）			対応		
<ul style="list-style-type: none"> ・施設の老朽化、設備の不具合、施設の衛生面、空調の温度設定 ・機械音や生活音がうるさい。 ・浴室の使用可能時間の延長 			<p>設備の不具合等は、早急に対応・修繕等している。その他の要望についても、可能な限り対応するよう努め、改善が難しいものについては、ご理解いただけるよう対応している。</p>		
主な利用者意見（積極的評価）					
<ul style="list-style-type: none"> ・職員の対応がとても親切で安心して活動ができた。 ・急な活動内容の変更などにも柔軟に対応していただき、ありがたかった。 ・普段は経験できない貴重な体験ができた。また利用したい。 ・細かいところまで整備がされており、大変気持ちよかった。 					

6 指定管理者による自己評価

成果のあった取組・積極的に取り組んだ事項・利用者満足度向上への取組
<ul style="list-style-type: none"> ・OJT を中心とした「その場研修」の充実により、利用者目線に立った接遇と指導・支援の質的向上を図った。 ・「危機管理マニュアル」に基づく訓練・講習等により職員の心構えや事故発生時の対応等についての共通認識や当事者意識を深めた。 ・オリエンテーション等を活用した説明やその都度の対応で、利用者に対する安全指導の徹底を図った。 ・利用者への丁寧な説明、的確な活動支援により、充実した体験活動の提供に努めた。 ・利用案内チラシを作成・配付することにより、施設の利用促進に努めた。 ・利用者からの意見・要望をもとに改善の検討を行い、利用者満足度の向上に努めた。
利用率向上、安全確保等への取組
<ul style="list-style-type: none"> ・積極的な利用促進活動を行い、施設の利用率向上に努めた。 ・団体の主体的な活動展開を推進しつつ、効果的な活動等を支援するため、活動内容等に対する事前指導を行うほか、実施の段階では、施設職員を必ず配置し、救急患者への迅速かつ的確な対応ができるようにする等利用者の安全確保に努めた。 ・利用者の立場に立った接遇や支援・指導ができるよう研修を実施し、職員の資質・能力の向上に努めた。
今後改善・工夫したい事項
<ul style="list-style-type: none"> ・利用促進を図るために、既存の事業の改善・充実にとどまらず、利用者の意見等を取り入れながら魅力ある新規プログラムの開発を行いたい。 ・施設設備の計画的な修繕及び更新を行い、利用者サービスの向上を図る。また、積極的かつ継続的な PR 活動を進め、利用率の向上に努めたい。

7 所管課による評価

項目	評価の内容	確認内容・所見等	評価
1. 住民の平等利用の確保	①住民の平等利用が確保されたか	利用申込書、利用計画書の手続により、平等な利用が確保されている。	C
	②使用許可に関する権限が適正に行使されたか	利用申込書、利用計画書の手続により、使用許可に対する適正な権限行使がなされている。	C
	③高齢者、障害者等に対する配慮はなされたか。また、平等利用が確保できない場合の対応は適切か。	障がい者用の駐車場、トイレが整備されている。また、職員も十分な配慮に努めている。	C
2. 施設の効用の最大限発揮	①施設の設置目的に沿った業務実施がなされたか	海の自然や産業・文化等を学べる生涯学習施設として事業を実施している。	B
	②施設の利用促進、県民サービスの向上が図られたか	積極的な PR 活動や年末年始の主催事業の実施等、利用促進に取り組んでいる。また、アンケートの調査結果により満足評価が得られており、県民サービスの向上が図られている。	B
	③利用者満足度を把握し、満足度の向上が図られたか	アンケートの調査結果により満足した評価が得られており、満足度の向上が図られている。	B
	④利用者からの意見、苦情に対して適切な対応がなされたか	意見、苦情に対しては早急な対応に努めている。	C
	⑤施設、設備、備品の維持管理や安全管理は適切になされたか	施設や施設等の維持管理を適切に行い、不具合箇所の早急な修繕に努めている。	B

	⑥指定管理者の創意工夫により業務改善等がなされたか	主催事業の見直しを行い、事業内容の改善に努めている。	C
3. 管理を安定的に行う物的人的基礎	①組織体制は適正か	自然体験活動の指導経験豊富な人材を活用している。	C
	②収支は適正でバランスがとれたものか	施設の管理執行体制等、適正な予算配分で執行している。	C
	③経費の縮減に取り組まれてきたか	委託事業の複数年契約や節電の実施等経費削減に取り組んでいる。	C
	④人材育成は適切に実施されているか	食物アレルギー研修会を行う等時代に即した知識の習得に努めている。	C
	⑤危機管理体制（事故、緊急時の対応）は確保されているか	「危機管理マニュアル」を整備し、事故発生時の対応等の意思統一を図っている。	C
	⑥県や関係機関との連携体制は確保されているか	緊急連絡網を整備し、連絡体制を確保している。	C
4. 個人情報保護	①個人情報の保護についての措置が計画どおり実施されているか	「財団法人とちぎ未来づくり財団個人情報保護事務処理要領」等に基づき適正に執行されている。	C
	②情報公開は適切になされているか	文書等の開示に関する規定に基づき適切に対応している。（H30開示要求なし。）	C
5. その他	①施設の特性にふさわしい自己評価がなされているか	運営方針、臨海自然教室受入事業、主催事業等分野別に自己評価を実施している。	C
	②自主事業が計画どおりに実施されているか	計画どおり実施されている。	C
	③イベント等を実施している場合は、地域との連携が図られているか	施設の特性を活かした主催事業を地域と連携しながら展開している。	B
	④環境への配慮（騒音・公害対策、ごみ削減等）がなされているか	裏紙使用やゴミの分別などを徹底している。	C
	⑤その他管理運営上の特記事項	食中毒防止などの衛生管理や安全管理マニュアルを作成し、安全で快適な管理運営に努めている。	C
総合的な評価			
<p>海を持たない栃木県民のために設置された施設の目的に基づき、利用者が充実した体験活動を行えるよう適正に施設運営を行っていると認められる。</p> <p>また、施設・活動内容等の安全確保や衛生管理を行い、好評を得ている。</p> <p>魅力あるプログラム等の検討や内容の見直し、広報活動の強化等に取り組んでおり、施設の利用促進に努めている。</p>			

※「評価」欄には、以下の指標により判定した結果を記載すること。

- A：事業計画に対して極めて優れた取組となっている。
- B：事業計画に対して優れた取組となっている。
- C：事業計画どおりの取組となっている。
- D：事業計画に対して劣る取組となっている。
- E：事業計画に対して極めて劣る取組となっている。